

1 文（文章）で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点（独立採点）すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容（語句）などがある場合は、その内容（語句）を減点要素として示されている場合もあります。
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。
c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「：とはどういうことか？」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一 10点 (各2点×5)

(a) かんじゅ (b) じゅんきょう (c) りやくだつ (p) そじ (e) さおさ(す)

※(d) 「そぢ」「きじ」は×0点。

問二 12点

A 3点

B 3点

(模範解答) 殉教も辞さない徹底的な非暴力の精神を貫いていたキリスト教が、国教化を契機にローマ帝国

C 3点

D 3点

に浸透し、帝国の存亡に関わる危機に直面した時、目的と手段の限定した戦争を妥協的に容認し

て正戦論が成立したということ。

A 「殉教も辞さない」に1点、「徹底的な非暴力の精神」に2点で3点とする。「徹底的な」はなくてもよい。

B 「ローマ帝国で国教化された」ということが読み取れさえすればよい。「国教化」だけなら1点。「ローマ帝国」という語が答案中にあっても、「国教化」という語がなければ点は与えない。

C ほぼ同意の内容であれば許容する。本文には具体例として「西ゴート人によるローマ掠奪(四一〇年)など、異民族(ゲルマン民族)の侵入によって帝国領土がしばしば脅かされていた」という記述がある。こうした具体例に触れているだけで「帝国存亡(存続)の危機」といった表現がない場合は1点だけ与える。

D まず本文に「許される戦争の目的と手段に限定を加える」とある。これと同意の内容と判断できるなら2点与える。次に「妥協的」に対応する表現がある答案なら1点与える。これは本文の「折り合いをつけようとした」に対応している。「折り合いを付ける」をそのまま答案で使ってももちろん許容。その他、例えば「仕方なく受け容れ」とか「甘んじて許容し」といった「妥協的」に類する表現も広く許容してよい。

A 3点

B 2点

C 3点

(模範解答) 近代に入り主権国家が排他的権威を獲得し、正義の国際的判定者が不在となつて国家理性に

D 2点

基づく戦争の正否は法的に根拠づけられないとされたが、二つの世界大戦の惨禍を経て、戦争を

E 3点

F 3点

含む武力行使それ自体を違法化する平和主義の機運が高まる一方で、侵略戦争に対する自衛戦争

の余地を認める正戦論的思考が限定的に復活した。

A 設問文に「近代以降のその過程を」という指定があるので「近代に入って」はなくてもよい。ここはほぼ本文そのままなので、答案にこの通りの内容があれば3点とする。「主権国家」の「主権」がない場合は2点とする。

B ここも本文をそのまま引いているので、ほぼこの通りの記述があれば2点とする。「正義を国際的に判定する者(主体)」がいなくなり(存在しなくなり)といった表現でももちろんよい。

C 本文の「(この戦争観のもとでは、)戦争は双方が「国家理性」に基づいて自由に行う政治の延長であり、そのどちらが正しく、どちらが不正かを決定する法的根拠は存在しない」という記述を簡潔にまとめたもの。ほぼ同内容の説明になっていると判断できれば3点与えてよい。本文のこの箇所を踏まえた説明であると判断できても、「国家理性」という語を欠いている場合は1点だけ与える。また「国家理性」という語があっても、「戦争の正否を決定する法的根拠がない」に対応する説明がなければ2点とする。

D 本文では、第一次大戦後の状況と第二次世界大戦後の状況それぞれについて詳しい具体的な説明があるが、それをそのまま丁寧に答案に示そうとしても制限字数内にはとても収まらない。そこで解答例はこのようにあっさりとした。二つの大戦後の状況をわけて説明していてももちろん間違いではないので、いかなる表現であれ、二つの大戦が戦争観の推移に影響を与えたということが答案に示されているなら、2点与えてよい。

※ E・Fは、第二次世界大戦後の、表裏一体となった対照的な戦争観を説明したものである。Eが「平和主義」、Fが「正戦論」の内容である。

E 本文の「戦争を含む武力行使そのものを違法化する取り組みが再開される」に対応する。この内容とほぼ同等のことが書かれていれば2点、それが「平和主義」であることが示されていれば1点で3点とする。

「戦争を含む武力行使」は「武力行使」だけでもよい。曖昧さを含むなら適宜減点する。

F 本文の「侵略戦争に対する自衛戦争の余地を明示的に認める」に対応する。この内容とほぼ同等のことが書かれていれば2点、それが「正戦論(的思考)」であることが示されていれば1点で3点とする。曖昧さを含むなら適宜減点する。例えば「侵略戦争に対する」を欠くものは曖昧と判断する。

問四 1.2点

A 5点

B 3点

(模範解答) 個々人が自己の生命に対して不可侵の自然権を持つのと同様に、国際社会を構成する国家も一

C 4点

種の法人格として、その権利侵害に対する正当防衛の権利を持っているという思考。

A 本文の「国内社会において私たち一人ひとり、自己の生命に対して不可侵の自然権をもっている」に対応する。これと同等の説明と判断できれば5点与える。「自然権」を単に「権利」としている場合は3点とする。説明が曖昧な場合は適宜減点する。本文には「権利を侵害しようとする他人に対しては、ときに実力に訴えてでもその排除を辞さない」「こうした行為は正当防衛として広く認められている」といった説明もあるのです。こうした表現を利用した答案も問題ない。但し「自己の生命に対して不可侵の自然権を持つ」という内容は必須である。

B 本文の「国家は一種の法人格として、個人と同様に一個の権利主体と見なされる」に対応する。「国家も法人格である(と見なされる)」という説明に2点、「国際社会を構成する・国際社会の中で」という説明に1点として、満点を3点とする。表現の揺れは少ないと予想されるが、ほぼ同内容のことを言っている判断できれば許容してよい。

C 本文の「ある国が別の国に侵攻や介入を働いた場合、それは被害国という「法人」の権利侵害、すなわち侵略という一種の犯罪行為と見なされる」「国家自衛権は、国際社会を構成する国家の固有の権利として、こうして個人の正当防衛との類推から、国際法上正当であると見なされる」という個所の要点を簡潔に示したものの、「権利侵害に対する正当防衛の権利」という内容にが明らかに読み取れる答案は全て許容してよい。曖昧さを含む答案は適宜減点する。例えば「権利侵害」に対応する説明がない場合は2点とする。



(評論)

採点基準・採点例

問一 各2点。解答通り。

(a) 整然 (b) 畏敬 (c) 付随 (附随)

問二 各2点。解答通り。

①唐 ②稽 ③工 ④曲

問三 10点

A 3点

B 4点

(模範解答) 混沌からいかに秩序が現出するかについて説明する世界創成神話は、変化の場としての空間の

C 3点

存在は所与のものとし、そこにある事物の起源と変遷に関心を持つものであるから。

A 「世界創成神話」が何を説明しているのかをまとめたもの。ほぼ同等の説明がなされているなら3点与えてよい。対応する本文は「創成神話において注目すべき特徴は混沌(カオス)から秩序(コスモス)がいかに現出してきたかという点に着目したことである」というもの。この個所の簡潔なまとめになっていると判断できる答案に3点与える。表現が曖昧と判断される場合は適宜減点する。

B 傍線部直前の「空間はどこまでも続き、所与のものとして変化の場を提供しているだけであった」という記述に対応する。「空間は所与のもの」という説明が最重要ポイント。これと同等の説明がなされていると判断できれば3点与える。「変化の場としての」という説明に1点与えて4点満点とする。例えば、本文に「空間は最初からそのまま存在しており」とあるが、ここを利用した答案には3点与えてよい。また本文に「空間の存在そのものについての疑いは持たず」という記述もある。ここを使って「空間の存在には疑いを持たず」といった説明をしている場合は2点とする。「存在の所与性」からややずれた説明になるからである。

C 本文に「そこ(＝空間)にある事物の起源(始まり)と変遷(形態の変化)に疑問を持った」、また

「時間的遷移(変化、変容、変遷)に関心があった」という記述があり、その内容をまとめて示したもの。

ほぼ同内容と判断できる答案には3点与えてよい。「起源・変遷(変化・変容)」という説明がなく、単に「時間的遷移に関心があった(を持った)」としている場合は2点とする。

A 4点

B 2点

(模範解答) 実体的なものは何も存在しないがエネルギーの充滿する真空を前提として、その場のどこに

C 3点

も存在する時空のゆらぎ、すなわち不確定性原理により静止せずに振動する原子を仮定し、それ

D 3点

E 2点

が何らかの偶然で相転移を起こし 実体的な現実世界へと転化したというもの。

A 「真空」についての説明。「実体的なものは何も(存在し)ない」と「エネルギーの充滿する」に分け、それぞれについて2点与え4点満点とする。ほぼ同内容と判断できる答案には4点与えてよい。表現が曖昧な場合は適宜減点する。

※ 次のB・Cは、Bで「時空のゆらぎ」を提示し、Cでその具体的説明をしている。BとCとを明確に区
分できない答案の出ることが予想される。その場合も、B・Cの内容が明確に答案に示されておればよ
い。丁寧に答案を吟味して下さい。

B 「時空のゆらぎ」という語が示されていればともかく1点与える。そしてそれが真空中の「どこにでも
存在する(存在しうる)」ということが説明されていれば2点とする。

C これは「ゼロ点振動」の説明。その内容を説明せずに、ただ「ゼロ点振動」という語だけ提示している
場合は1点だけ与える。本文では「絶対零度においても原子が不確定性原理のために静止せずに振動してい
ること」というふうに説明されている。この説明と正しく対応していると判断できれば3点与えてよい。

説明が曖昧な場合は適宜減点する

D 真空中で「偶然に相転移が起こる」ということの説明。「相転移」に触れているだけの答案は2点とす
る。それが「偶然・たまたま・何かの拍子に」起こることが説明できていれば3点与える。但し、「偶然・
たまたま・何かの拍子」といった表現がEに入ってもよいので、その点はしっかりと答案を吟味して下
さい。

E 本文の「(何かの拍子で相転移を起こして) 現実世界に転化した」とあるのを承けたもの。「実体的な」
に対応する説明のない答案は1点とする。「実体を持つ・実体としての・実質を持つ」といった表現もち
ろん許容してよい。

A 2点

B 3点

(模範解答) 自然は洗練されているという前提に立つて、人間の感覚でムダとされる要素を排除する現代科

C 3点

D 2点

学とは異なり、素朴な直観性と身近なものからの空想力を駆使して、混沌から秩序が現出する仕

E 2点

組みを物語として提示するもの。

※ A・Bは傍線部と対照的な「現代科学」についての説明の提示。設問に「現代科学」との対比を示して」という要求があるので必要不可欠な内容。

A 同内容が答案に必須。「源田科学」の依って立つ前提である。

B これと同内容の説明が答案に不可欠。

※ 本文には「自然は洗練されていてムダをしないという信仰」、また「人間の感覚のみによってムダと判断し、科学の領域を狭めてきた」とある。この二箇所をもとにA・Bの説明がある。解答例のようにAとBを明確に分けずに説明している答案も予想される。その場合も、それぞれの内容が答案での確に説明されているかどうかしつかりと吟味して下さい。やや曖昧と判断される場合は適宜減点する。

C 本文の「素朴な直観性と身近なものからの空想力」という記述をそのまま答案に使っている。少しの改変があってもほぼ同内容と判断できれば3点与えてよい。これを言い換えた答案はあまりないと予想される。

D 「世界創成神話」が描き出す内容の基本的な説明。答案には不可欠の内容。ほぼ同意なら広く許容してよい。但し、「混沌からの秩序の現出」という内容は不可欠だから、それが無い場合は1点しか与えられない。

E 「物語」という語は、本文冒頭の段落中にある。「物語」は入試現代文評論のキーワードとも言うべき概念である。提示できている答案は少ないと予想されるが、是非とも示して欲しいキーワードである。「物語」という語があれば2点与える。

※現代語訳問題(問一・問二・問四)では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

問一 (a) 傍線部を現代語訳しなさい。 【3点】

〔該当傍線部〕 A3 いかで見む

〔模範解答〕 A3 何とかして(女に)会おう

〔ポイント〕

A 【3点】 いかで見む ↓ 何とかして(女に)会おう

※「女に」はなくてよい。

※「何とかして」「は」「どうにかして」「でもよい。」「どうして・なぜ・どうやって」などほとんど「**x**」。

※「会おう」「は」「会いたい」でもよい。「見よう・見たい」となっている場合は【2点】。「会うだろう・見るだろう」などは**x**。

問一 (b) 傍線部を現代語訳しなさい。 【3点】

〔該当傍線部〕 A2 心あり B1 し人

〔模範解答〕 A2 風流であつ B1 た人

〔ポイント〕

A 【2点】 心あり ↓ 風流であつ

※「風流だ・趣(情趣)を解する」(風流なことに理解がある)の意があればよい。

※「趣がある・趣深い」など、その人自身に雰囲気があるとれる表現は【1点】。

B 【1点】 し人 ↓ た人

※Aが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※過去表現と「人」の両方があつて【1点】。

問一 (c) 傍線部を現代語訳しなさい。 【3点】

〔該当傍線部〕 A2くまなうB1あはれなり。

〔模範解答〕 A2陰りもなく、B1しみじみと趣深い。

〔ポイント〕

※ 「月は」という主語の有無は不問。

A 【2点】 くまなう ↓ 陰りもなく、

※ 「雲による（陰りがない）」の意か、「（満月で）欠けることがない」の意があればよい。

B 【1点】 あはれなり。 ↓ しみじみと趣深い。

※ 「しみじみとする」か「趣深い・情趣がある」か「美しい」のいずれかの意があればよい。

問一 (d) 傍線部を現代語訳しなさい。 【3点】

〔該当傍線部〕 A2をさをさB1いらへもせず。

〔模範解答〕 A2まったくB1返事もしない。

〔ポイント〕

A 【2点】 をさをさ ↓ まったく

※ 「少しも・全然」など全否定であればよい。

※ 「ほとんど・なかなか・しっかりと・あまり」など全否定ではない否定になっている場合は 【1点】。

B 【1点】 いらへもせず。 ↓ 返事もしない。

※ 「返事」は「返答」でもよい。

問二 和歌(A)を現代語訳しなさい。

【6点】

〔該当和歌〕

A1 虫だにも B1 あまた C1 声せぬ D1 浅茅生に一人住むらむ人を E2こそ思へ

〔模範解答〕

A1 虫さえも B1 たくさんは C1 鳴かない、D1 草が茂った場所で、一人寂しく住んでいるような人を E2 気がかりに思うよ。

〔ポイント〕

A【1点】 虫だにも ↓ 虫さえも

※「さえ」は「すら」でもよい。これに相当する訳がない「虫も」は×。

B【1点】 あまた ↓ たくさんは

※「多く」の意があればよい。

C【1点】 声せぬ ↓ 鳴かない、

※「鳴かない・声がしない・声が聞こえない」などの意があればよい。

※「いない」などは×。

D【1点】 浅茅生に一人住むらむ人を ↓ 草が茂った場所で、一人寂しく住んでいるような人を

※「草が茂った場所」は同意であれば「草(茅)が生えた所・草の生い茂った荒れ果てた家」などでもよい。これに相当する表現がない場合は×。

「浅茅生」のままは×。「草」について触れていない「荒れ果てた家」なども×。

※「寂しく」はなくてもよい。

※「住んでいるような」は

「住むような・住んでいるという・住んでいると聞く・住むという・住むと聞く」(婉曲・伝聞を使った訳)や、

「住んでいるのであろう・住んでいるらしい」(推量・推定を使った訳)でもよい。

※右の意がない「住む人」は×。

E【2点】 こそ思へ ↓ 気がかりに思うよ。

※「気がかりに」は「どんな人かと」など、または「慕わしく・愛しく」などでもよい。これらに相当する表現がない「思う」は【1点】。

※「よ」はなくてもよい。

問三 傍線部は、『伊勢物語』にある歌「飽かなくにまだきも月のかくるるか山の端逃げて入れずもあらなむ」であるが、若小君はどのような思いを込めてこれを言っているのか、説明しなさい。【6点】

〔該当傍線部〕 飽かなくにまだきも月の

〔模範解答〕 A3会ったばかりなので、B1女にC2姿を隠さずについて欲しいという思い。

〔ポイント〕

A【3点】 会ったばかりなので、

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「会ったばかりなので」、または「まだ十分に姿（顔）を見ていないので」の意があればよい。

B【1点】 女に

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※Cの要望が「女」に向けられていると分かればよい。

C【2点】 姿を隠さずについて欲しいという思い。

※「姿を隠すな・隠れるな」という要望であると分かればよい。

問四 和歌(B)を、比喻表現をふまえて、現代語訳しなさい。

【8点】

「該当和歌」 A2入りぬればB1影も残らぬ山の端にC1宿まどはして嘆く旅人(D1・E1・F1・G1)

〔模範解答〕 A2月が沈んでしまうとB1その光も残らない真つ暗な山の端でC1宿がなくて困って嘆く旅人D1のように、E1あなたが姿を隠してしまうと、F1私はどこに泊まったらよいのかG1わからなくなってしまうです。

〔ポイント〕

A【2点】 入りぬれば ↓ 月が沈んでしまうと

※「月が沈む」の意があれば【1点】。

※「月が沈む」の意がある上で、「沈んでしまうと・沈んでしまうので（から・ため）・沈んでしまったので（から・ため）・沈んだので（から・ため）」の意があれば【2点】。語尾が「（しまえ）ば・たら・もしくはならば」となっている場合は×とする。

B【1点】 影も残らぬ山の端に ↓ その光も残らない真つ暗な山の端で

※「光（月光）も残らない山の端で」の意があればよい。「真つ暗な」はなくてよい。

※「影」は「影」のままや、「面影」などは×。

※「山の端」は「山の端」のままでもよい。

C【1点】 宿まどはして嘆く旅人 ↓ 宿がなくて困って嘆く旅人

※「宿がなくて」は「宿が見つからず・宿を見つけられず」などでもよい。

また、「宿で困って・宿に困って」という表現があれば、「なくて・見つからず」はなくてもよい。

※「困って嘆く」は「困る」か「嘆く」のいずれかに相当する表現があればよい。

※「旅人」は「旅人である私」でもよく、「旅人である私は宿がなくて嘆いています」のような語順でもよい。

「旅人」は単なる「私」では×。

D【1点】 (補い) ↓ のように、

※Cが×の場合は得点できない。

※Gが×の場合は得点できない。

※「ではないが・と同じく」など、A～CがE～Gの比喻であることがわかるものであればよい。

E【1点】 (補い) ↓ あなたが姿を隠してしまうと、

※Gが×の場合は得点できない。

※「あなたが姿を隠すと・あなたが隠れると」の意があればよい。

F【1点】 (補い) ↓ 私はどこに泊まったらよいのか

※Gが×の場合は得点できない。

※Gが「宿泊・泊まる所」に関することであるとわかればよい。

G【1点】 (補い) ↓ わからなくなってしまうです。

※「わからなくなる・嘆く・悲しむ・・悲しい・つらい・困る・困惑する」などの意があればよい。
※「愛しい・慕わしい」などは×。

問五 傍線部とはどういうことか、説明しなさい。

【6点】

「該当傍線部」 おぼろげには、かく参り来なむや

「模範解答」 A5 いいかげんな気持ちで来たのではなく、女に深く心ひかれてB1 邸を訪れた(A)のだという」と。

「ポイント」

※「若小君は」といった主体の有無は不問。ただし、「若小君」でない主体を書いている場合は全体が×。

A【5点】 いいかげんな気持ちで来たのではなく、女に深く心ひかれて のだということ。

※「女に対する気持ち(愛情・思慕の念)が、いいかげんでない(浅くない・深い・まじめだ・真剣だ)」、もしくは、「女に深くひかれている」の意が

あればよい。ただし、「深く」の意がない「女にひかれている・女に興味がある」などは【1点】。
※「女に対する」の意が明らかでない場合は減点、

つまり、

「気持ち(愛情・思慕の念)が、いいかげんでない(浅くない・深い・まじめだ・真剣だ)」「や深くひかれている」などは【1点】。

「ひかれている・興味がある」などは×。

B【1点】 邸を訪れた

※Aが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

問六(1) 和歌(C)について、女はなぜ言葉を発したのか、説明しなさい。

【6点】

「該当和歌」 かげろふのあるかなきかにほのめきてあるはあるとも思はざらなむ

「模範解答」 A2若小君の様子に心ひかれたうえ、B2若小君が少年であったために、C2少し軽んじて気安く感じたから。

「ポイント」

A【2点】 若小君の様子に心ひかれたうえ、(5から。)

※「様子」が「若小君」のものであるとわからない場合は×。解答全体から分かれればよい。

※「様子」は「雰囲気・気配・ものごし・態度・風体・姿」などでもよい。「容貌・容姿・顔つき」など限定された表現は【1点】。

※「心ひかれた」は「魅力を感じ・慕わしい・親しみが感じられる」などでもよい。

B【2点】 若小君が少年であったために、(5から。)

※「少年」が「若小君」のことであるとわからない場合は×。解答全体から分かれればよい。

※「少年」は「子ども」でもよく、「年若い・年少」などの表現で説明されていてもよい。

C【2点】 少し軽んじて気安く感じたから。

※「少し」はなくてよい。

※「軽んじて気安く感じた」は「軽んじた・軽く見た・軽視した・侮った・甘く見た・なめてかかった・高をくくった・見くびった・見下げた・馬鹿にした」などでもよい。

※右の意がなく「気安く感じた・安心した・気楽に感じた・楽観視した・緊張がほぐれた・うち解けた・気が置けないと思った」などがある場合は【1点】。

問六(2) 和歌(C)について、「あるかなきかにほのめきてあるはあるとも思はせらなむ」とはどいうことか、説明しなさい。 【6点】

「該当和歌」 かげろふのあるかなきかにほのめきてあるはあるとも思はせらなむ

「模範解答」 A3 生きているという実感もないほどに細々と生きている○3 自分のことは放っておいてほしいということ。 【ポイント】

A 【3点】 生きているという実感もないほどに細々と生きている () (自分)

※「自分(女)が、生きているという実感もない状態である」という意味があればよい。

※「生きているという実感もないほどに」「は」「生きているのかいないのかもわからずに・いるかないかもわからないように・存在もおぼつかなく」などでもよい。

ただし、「これらは」「はかなく暮らしている状態」をいうものでなくてはならない。「いるかないか」「まかしているのだから」などは×。

※「生きているという実感もないほどに」「に相当する表現があれば」「細々と生きている」「はなくてもよい。

「生きているという実感もないほどに」「に相当する表現がなく、「細々と生きている」がある場合は【2点】。

※「細々と生きている」「は」「はかなく生きている・頼りなく暮らしている・かろうじて生きている」などでもよい。

B 【3点】 自分のことは放っておいてほしいということ。

※「自分を放っておいてほしい・自分のことはいてもいらないものと考えてほしい」の意があればよい。

※「自分を・自分のことは」の意がない場合は【2点】。